



ナラヲヨム

第5号 2006年11月3日発行

発行者●ナラヲヨム発行委員会 発行責任者●乾昌弘 企画編集●奈良県立図書館 編集協力●(株)読売奈良ライフ

Autumn
2006
Vol. 5

ナラヲヨム。



ふれる奈良

若い奈良

WAKAI NARA NO.5

1300年の伝統をもつ奈良。
長い歴史に新たなページを創る
若い力があります。
新しい風の“今”をお伝えします。

■Photo:Chie Kataoka



ライトセラピーの聖地ー吉野
吉野には、人を魅了し、
心を癒す色と素材にあふれています

吉野檜あかり作家 坂本尚世 Sakamoto Hisayo

- 1993年 短期大学を卒業後、設計事務所でアルバイト
- 1997年 創造社デザイン専門学校 夜間部 インテリアデザイン学科 入学
- 1998年 照明塾 橋田裕司氏の照明の授業の中で「ヒノキかんなくずのあかり」を製作
- 1999年 3月 卒業後、照明塾 橋田裕司氏に師事 あかり創りを始める
- 2000年 12月 茂庵（京都・吉田山）「野あかり」に企画から参加、お茶室にあかりを展示
- 2001年 6月 吉野町上市『NEW レトロ上市』で地元商工会青年部と「akari ba」を作る
8月 『吉野 山灯りコンテスト展』内で「吉野檜のあかり展 あかり教室」開催（以降毎年開催）
- 2004年 3月 個展『夕陽色の檜あかり展』（大阪心齋橋にて）
12月 奈良県吉野に工房兼常設ギャラリー「あかり工房 吉野」をオープン
- 2006年 4月 NHK教育テレビ 「おしゃれ工房」出演
その他グループ展にも多数参加。店舗・住宅用のオーダー照明製作多数。

主な活動内容

- 吉野檜・杉、吉野手すき和紙を使った「あかり」製作
- 吉野檜（杉）光壁製作
- 吉野の素材を使った「あかり作り教室」の開催



ナラヨム Vol. 5 CONTENTS



■Photo:尾崎充康/「輝く紅葉」

- 1 若い奈良
吉野檜あかり作家 坂本尚世
- 4 **特集** ふれる奈良
飛鳥池遺跡
能楽
秋篠薫
- 10 図書館情報館トピックス
県立図書館情報館 開館1周年
- 11 図書館情報館がよむ
「正倉院と森嶋外」
- 12 河瀬ワールド
殯の森を訪ねて 第三章
- 14 NARA発信倶楽部
企業人に聞く
奈良豊澤酒造株式会社 専務取締役 豊澤孝彦氏
- 16 編集後記



Sakamoto Hisayo

ライトセラピーに魅せられて

短大を卒業した後、インテリアデザインを勉強するために専門学校に通ったのですが、照明デザインを勉強するうち、「ライトセラピー」ということばに出会いました。「ライトセラピー」とは、「あかり」で安らぎの時間を過ごすということです。人の心を和ませるあかりとは、夕日のような、オレンジ色の暗めのあかりです。そんな夕日に魅せられたのが始まりでした。

自然のリズムに逆らわない

日本では、照明への意識がそれほど高くありません。少し考えていただければ分かると思うのですが、私たちは眠る直前まで屋間の様な明るい蛍光灯の下で過ごしていることがあります。くつろぎの場でもあるリビングでも、蛍光灯がこうこうとついていることが珍しくありません。明るさに慣れ、暗さに不慣れになってしまっているのです。しかし、人間は古来より日の出から日没まで、さまざまな光の変化とともに生活してきたのですから、本来そのような光の変化に深く関係した「生体リズム」をもっています。ですから、自然の光のリズムに逆らい、眠る前まで明るい光の中で過ごしていると知らないうちにストレスになり、脳がリラックス出来なかつたりすると言われています。眠る前やリラックスしたい時には、夕日の様な暗めのオレンジ色の光で過ごす、ストレスを和らげ、リラックスして一日を過ごすことができるのではないかと思います。それが、夕日色というかやや暗めのオレンジ色のあかりなのです。

こたえはふるさと吉野にあった

そんなあかりのことを考えているとき、地元吉野の素材にたどり着きました。檜を透過した光の色や質が「ライトセラピー」に適していることに気づいたのです。それは同時に、都会に憧れていた自分に改めてふるさとに、ここにしかない自然や歴史があることに思いを馳せることにもなりました。色も素材ももともと身近なところにあった、ということでしょうか。私にとっては、吉野は普通のイナカに見えていたのですが、離れて見て、そこにある歴史的なロマンや自然のすばらしさ、外から見たイメージの良さに気づいたのです。

吉野ブランドとして

吉野檜をつかったあかりで「ライトセラピー」ということだけではなく、吉野の木の良さもPRしたいのです。このあかりを通して、吉野の素材（杉、檜、和紙）の良さを再認識して頂ければと思っています。2年前に作ったギャラリーも訪れた方に実際に吉野材の空間を体験して頂ける様にと、吉野の檜・杉をふんだんに使いました。木の感触や自然な香りが心地よく、癒されると大変喜んで頂いています。また、これまで育てた「檜を薄くしてランダムに貼り合わせる」という独自の技法を、今度は



インテリアの素材として転用し、壁一面を光らせる“光壁”の製作にも取り組んでいます。ランダムに貼り合わせた薄板に後ろから照明を灯すことで、さまざまな色の変化を生み出すことができます。新しい吉野ブランド製品として広めたいと思っています。また、皆さんの手で実際に吉野の素材の良さに触れて欲しい、リラックスできる「あかり」がある生活を送って欲しいという想いから、あかり作り教室を開催しています。

自然に感謝しながら

吉野の檜や杉などの素材を使いながら、木のよさをアピールしたいと考えていますが、一方で山林のサイクルが壊れつつあることに、危機感をもっています。山は木を育てるだけでなく、水（命の水）をも育てています。自然の恵や、それを育ててきた歴史に感謝する、そんなことも視野に入れた活動をしていきたいと考えています。
(談)

EVENT

12月3日(日)
奈良まちおこし「結び会」であかり作り教室開催
■場所：桜井市 大神神社駐車場 「結び会」会場
※詳しくは…
結び会事務局 (2010年塾) ☎742-24-7770
または「あかり工房 吉野」ホームページをご覧ください。



あかり工房 吉野

吉野郡大淀町北野13-12
TEL&FAX 0746-32-5282
http://www.akari-yoshino.com/



古代ガラス製作体験

毎月第二土曜、第四日曜に明日香民俗資料館内眞神荘で開催
しています。(都合により日程が変更になる場合があります。)
TEL 0744-54-2362
http://asukakyo.jp/

インストラクターのみなさん

ふれる奈良

Special EDITION

その昔、大和の地に生まれた技術
豊かな風土に育まれた芸術
有形無形の技に想いを馳せて……



飛鳥池遺跡から出土したるつぼ、ガラス玉 写真提供: 奈良文化財研究所 ▶

ガラス玉づくり 3 工程



⑦⑧⑨ 1cmくらいにカットした管ガラスを鑄型にセットし、再度加熱します。ガラスが溶けてくると角が丸くなります。鑄型から取り出し、水洗いをして完成。

管ガラスづくり 2 工程



④ 溶けたガラスを2本の金属棒に巻き取ります。
⑤⑥ ガラスがやわらかいうちに合わせ、炉の上で熱しながら引っ張り、長く伸ばすと管ガラスの完成。

ガラスづくり 1 工程



① るつぼにガラスの原料をいれ炉で溶かします。
②③ ふいごから空気を送り、炭を燃やして炉内の温度を800~900度上げていきます。

復元された道具



▲鑄型



▲るつぼ



▲炉: 空気を送る「羽口」「ふいご」を備えている。

ガラスの原料



▲古代と同じガラス成分主成分はケイ素

1300年前の工房跡とされるこの遺跡からは宮本鏡やガラス玉などさまざまな製品が出土しました。このガラス玉を古代の技法で今に再現できる「古代ガラス製作体験」をご紹介します。

古代にふれる
飛鳥池遺跡





▲「鳥亀」



▲「巴」



▲「舍利」

日本古来の芸能にふれる

く能楽く

能楽発祥の地「奈良」。室町時代、観阿弥・世阿弥の父子によって形作られ、江戸時代に様式が完成された。さかのぼれば神代の時代にまで。

能のルーツー大和猿楽

室町前期に、田楽や猿楽の諸座が芸を競う中で、奈良・興福寺が支配する「大和猿楽」の四座が、のちの「大和四座」(現在の金春流・観世流・金剛流・宝生流)と呼ばれるようになりました。毎年五月に「興福寺薪御能」が催されていますが、これは、古くは、「薪神事」と記されており、千年以上の歴史があるとされています。また、春日大社若宮の祭礼・おん祭りでは、原初の猿楽が催されます。県内には何カ所か、発祥の地の記念碑も建立されています。

ところで、舞・謡とともに能舞台、能面、能装束そして笛・鼓・太鼓の囃子など、能楽を構成する装置や道具にも目を向けてみると、また違った面白さにふれることができます。

能楽には、翁、石橋、道成寺、清経、三輪、葛城、飯羹の上、老松、高砂、砦、安宅：250番もの演目があります。深まる秋のひととき、能楽鑑賞に興じてみてはいかがでしょうか。



こんばる ぼたか
金春 穂高

現職：能楽師(金春流シテ方)、重要無形文化財保持者、日本能楽会会員、(社)金春円満井会理事、(社)能楽協会大阪支部常議員、奈良大学講師、西御門金春会・名古屋金春会主宰
経歴：金春晃實氏の長男として昭和40年奈良に生まれる。4歳から祖父の77世宗家栄治郎と父につき稽古を始め5歳で初舞台。神戸大学教育学部卒。

興福寺南円堂裏にある発祥地記念碑





今西方哉氏

- 昭和22年 陶芸家今西洋の三男として生まれる。
- 昭和49年 京都市立芸術大学専攻科(現大学院)卒業。
人間国宝近藤悠三氏の弟子として磁器染付を学ぶ。
- 昭和59年 「焼き物をつくろう」(文研出版)を出版。
- 平成 3年 文化庁在外芸術家研修員として米国で研究・制作。
- 平成 5年 米国ペンシルベニア州立大学で准教授として教鞭を執る。
- 平成6・7年 米国アーチブレイ財団にて夏期研修。
- 平成 9年 滋賀県立陶芸の森創作研修館で招聘講師として制作。
- 平成11年 米国イリノイ州立南イリノイ大学美術館にて個展。
- 平成16年 米国モンタナ州都ヘレナ・ホルター美術館にて個展。

■日本工芸会正会員。
〒631-0811 奈良市秋篠町651-2



細い道が続く住宅地に建つ秋篠寺の南門から西に少し歩くと、赤レンガで造られた3本の煙突が見える。今西方哉氏の「秋篠窯」である。

展示室には、今西洋氏が見極めた秋篠土に方哉氏が独自に考案した「翠簞釉」を施した秋篠焼と、方哉氏の磁土による染付磁器が展示されている。大皿に描かれた大樹(命の樹)は力にあふれ、方哉氏の創作テーマ「大自然」が十分に表現されている。

古代より秋篠の付近はすぐれた陶土と良水に恵まれた土地柄だったようで、秋篠氏が有力な土師部として栄えたと伝えられている。

土にふれる 〜秋篠窯〜



県立図書館は開館1周年を迎えます。

県立図書館は、11月3日に開館1周年を迎えます。利用者数もその前後に、50万人に達する見込みです。館内を巡りながら、この1年を振り返ってみたいと思います。

正面入り口を入ってすぐのメインエントランスホールでは、開館記念展示として「手塚治虫の奈良」展をおこなった他、数々の企画展示をおこなっていただきました。また、寄贈いただいた上村淳之画伯作

の「四季花鳥図」が飾られており、この「四季花鳥図」をめぐる夕べと題し、文化庁長官の河合雄雄さんらによるフルートコンサートをおこないました。

2階BDSゲート北側のセミナールームでは昨年の12月以来ほぼ月に2回単体パソコン教室をおこなってきました。また、最近では奈良県中小企業支援センターとの共催によるビジネス関係の講習会にも使用されています。

吹き抜けの階段を上った南側の3階ブリッジでは開館記念「ドイツの200冊」展をはじめ、テーマ図書展示をおこなってきました。

3階ブリッジを渡り北側の戦争体験文庫では1年を通してテーマを決め寄贈いただいた非図書資料の展示をおこなってきました。

また、1階交流ホールは開館記念講演会、図書劇場をはじめ『液晶デ

イスプレイ&太陽光発電システム』技術展、古文書入門講座など数々の講演会等の舞台となりました。このように、企業との連携展示、外国機関との連携展示など従来の図書館の枠にはまらない活動をおこなってきました。

2年目をむかえ県立図書館情報館はさらなる情報創造・発信・共有化をとおしての知的交流の場をめざしていきたいと思っております。



開館記念式典



「手塚治虫の奈良」展



ドイツの200冊展



「四季花鳥図」をめぐる夕べ



風と競う・海からの愛写真展



古都物語パブリック企画展



図書館劇場 第三幕



シャープ技術展

正倉院と森鷗外

SHOSO-IN and OGAI-MORI

森鷗外と正倉院との関係は...



正倉院の由来について

奈良・平安の時代には、中央・地方の官庁や大寺には、重要物品を納める正倉というものがあつたようです。正倉院とは、この正倉が幾棟も集まつていた場所の総称です。千有余年が経過し、現存しているのは、東大寺正倉院内の正倉一棟だけとなりました。

「正倉院宝物」とは、聖武天皇崩御の四十九日目に、光明皇后が天皇の遺愛品など六百点余りを東大寺の本尊盧舎那仏（大仏）に献納したものと、この前後に献納した遺愛品を以つて、正倉院宝物の起こりとされていきます。また、献納された遺愛の品々は、正倉院宝庫の北倉に収納されたそうです。

明治に入り、正倉院宝庫の管理は、東大寺から様々ないきさつを経て、宮内庁の管轄となりました。現在は、古来の正倉のほかに西宝庫と東宝庫があり、いま宝物はこの両宝庫に分納して保存されています。

夢の国燃ゆべきものの燃えぬ國木の校倉のとはに立つ國

「奈良五十年」より



金銅水瓶



東大寺献物帳 (国家珍宝帳)



森鷗外

帝室博物館総長としての森鷗外

大正六年十二月に宮内省帝室博物館総長兼図書頭に任命されました。帝室博物館総長というのは、現在の東京国立博物館館長にあたるのですが、当時は、宮内省(現在の宮内庁)の所轄で、京都・奈良を含めた三館がひとつの組織であつたので、帝室博物館総長が各館の上位になっていました。当時は、帝室博物館が正倉院も管理していましたが、

正倉院の総括責任者であつた鷗外は、毎年十一月の曝涼(虫干し)の時に、立会いをしなければならぬため、奈良に一月ほど滞在していました。

このときの鷗外の様子を『南都小記』や日記『委蛇録』の中の「寧都訪古録」に記されています。雨が降って正倉院の曝涼が中止となると、奈良の古社寺や旧跡を巡っていたようです。また、奈良に関する歌集の「奈良五十首」を大正十一年に『明星』に発表しています。



河瀬直美

「殞の森」を訪ねて 第三章

奈良を舞台にした映画「殞の森」が八月三十一日にクランクアップしました。公開は来年二〇〇七年初夏の予定です。今回は約四十日間の撮影中に感じた印象や、撮影し終わっての手ごたえなどをお聞きます。



河瀬直美監督・脚本の「殞の森」がクランクアップして、いまの気持ちはどうですか。

河瀬 非常に充実した夏を過ごしたという実感と、さてこれから、この良質の素材を生かして、どう編集し、作品世界を構築してゆかかという不安と期待の入りまじった複雑な気持ちでいっぱいです。

撮影中に苦労されたこととか、印象に残っているシーンはありますか。

河瀬 とても結束力の強いスタッフ、俳優陣でしたから、皆自分の場所に帰ってゆく夏の終わりは、とても悲しい気持ちでいっぱいになりました。まだまだやらなければいけない作業は沢山あるというのに、なんだか心がからっぽになるように、「祭りのあと」とはよく言ったものです。ほとんどが東京のスタッフで、ほぼ初

めて出逢った人々にもかわからず、奈良で二カ月近くも一緒に釜の飯を食べていると、別れがたいものなのでしょう。東京チームは、九月中です。もう二、三回は飲みに行つて、朝まで一緒に過ごしているみたいです。認知症役のしげきは、奈良市内で古本屋を営むおじさんで、俳優としては素人です。もちろん、役づくりに取り組む姿勢は非常にまじめで、実際のグループホームに一月以上通いつめ、入所者の方々と深い心の交流を重ねてきました。そうして彼らの視線の配り方、立ちふるまいをしつかり身につけてくれたと思います。ただ、やはりカメラがそこに介在すると緊張感がしげきを覆いつくします。つまり自然な動きができなくなるのです。だから、たとえば肉体的に極限にまで追い込んで、本当に疲れた表情を撮影した妻の墓でのラストシーンはやはり印象に残っています。

現在、認知症の方々を取り巻く問題は非常に深刻であり、身近な問題だと思えますが、「殞の森」で描いたテーマがそういった部分にどのような問題提起をされていくのですか。さらに「殞の森」は人間愛の回復も、テーマになっていると思えますが。

河瀬 問題提起というような大きな思想が私にはありません。私自身にとっても非常に身近な事柄なのです。育ての母である母の叔母は、ことし九十一歳を迎えます。十年前には普通にできていたことが全くななくなっていく現状がそこにあります。一番身近な家族は、それを目の当たりにしたときに、非常につらい悲しみとともに、その人への虐待にも似た行為をしかすこともあります。そんなとき認知症の方はもちろんのことむしろ家族の側の心のケアが重要な気がしてなりません。そしてたとえば、家族ということだけ

に縛られず、いまの日本社会を見たときに、本当のところは隣の人や自分と価値観の違う人とも、交流を深めたいという思いはあるはずなのに、私たちはそういったものを排除することで自分だけが幸せであればいいというような考えが普通になってはいませんか。けれど、そういった人々を認め合える成熟した社会には損得に関係のない人間愛が必ず存在すると信じています。映画「殞の森」がそういうことを考えてもらえるきっかけになればいいですね。

完成後の日本での公開予定と、世界の映画祭への出品予定などお聞かせください。

河瀬 今回の映画は、文化庁からの助成金をいただいて製作することが内定しています。これは「地域で製作される映画に対する助成金」という枠のことです。つまり、単に映画の内容を評価されたこと以上に奈良という地域で製作を続けるこ

今後の抱負をお聞かせください。

河瀬 ミュージシャンは全国ツアーをしながら、直接観客にその感動を与え、自分たちの表現を実感することができます。映画だってそうあっていいのではないかと。特にわたしのように大きな映画会社で作っていない作品にはそのほうが向いている気がします。作品の中には海外のTV

局と製作した日本では公開されていない作品があります。そういった作品からこの全国巡回ホール上映ツアーによって、地道でもほんの少しでも「命」の美しさを伝えられるなら。そんな機会をじわじわと増やしてゆきたいと思っています。

河瀬直美 かわせ なおみ・映画作家



奈良生まれ。奈良一高高等学校外国語科卒業後、映画制作への道を進む。現在は「殞の森」編集作業のかたわら全国巡回ホール上映にむけて奔走中。

うだしげき

「ふらり奈良町」の発行人&古書喫茶「くろ」のオーナー。作「殞の森」をいながら一をじる。



「殞の森」-ひとコマもがり-申し込み方法

〈ひとコマ〉 一口 2000円
〈払込先 郵便振替番号〉
00970-9-245449
〈口座名称〉
ひとコマもがり
郵便局の払込取り扱い票に、あなたの郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、電話番号をご記入ください。

2007年初夏 特別試写会予定会場

なら100年会館(奈良市)
やまと郡山城ホール(大和郡山市)
かしはら万葉ホール(橿原市)
桜井市民会館(桜井市)
西吉野コミュニティセンター(五條市)
大淀町文化会館あらかしホール(吉野郡)



どんなに生活が変化しても
人と人のつながりは
変わってほしくないと
願いたいものです。
〈ナント〉はこれからも
人と人のつながりを大切に
地域の皆さまとともに
歩んでいきたいと思いを。

南都銀行はまほろばの心を
未来へと伝えます。



編集後記

秋晴れの昼下がり、暑くもなく寒くもなく、それでいて適度に風が
通り抜けていきます。秋の心地よさを改めて感じる一瞬です。
ふれる、という、自ら手を伸ばしてさわりにいく、という感じがありますが、
実は、われわれは日々、さまざまなものにふれられている存在でもあります。
ふれられることで、ふれている自分を自覚する、ということでしょうか。
ふれる奈良とは、奈良という空間に現に抱かれている
われわれ自身を再発見することなのかもしれません。(イ)



写真提供: kazahana

ナラヨム 第5号 平成18年11月3日発行

企画編集 奈良県立図書館 発行責任者 乾 昌弘

発行者 ナラヨム発行委員会
(株)南都銀行 / (株)明新社 / キリンビール(株)奈良支社 / 梅乃宿酒造(株) / 奈良豊澤酒造(株) /
(株)中谷本舗 / 近畿日本鉄道(株) / (株)三輪そうめん山本

編集協力 (株)読売奈良ライフ 題字 紫舟

本誌の無断複写・複製・転載を禁じます。

7色印刷・イベント・IT・セールスプロモーション・ノベルティ



株式会社 明新社
URL <http://www.meishin.co.jp>
E-Mail info@meishin.co.jp

- 本社 630-8141 奈良市南京終町3丁目464番地
TEL 0742-63-0661 (代) FAX 0742-63-0660
- 大阪営業所 543-0001 大阪市天王寺区上本町6丁目6番1号
TEL 06-6771-4501 (代) FAX 06-6773-0492
- もちいどの店 630-8217 奈良市橋本町36番地
TEL 0742-23-3131 (代) FAX 0742-26-0093

